

愛知教育大学 第一共通棟 発表会場

受付は第一共通棟 2 階の南端になります。

201 プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ 共同企画Ⅴ		☆女性用トイレ 男性用は奇数階のみ 階段					〔第一共通棟 2 階〕	
202 事務局控室	207 出展ブース							
203 休憩室	208 出展ブース							
204 休憩室	209 出展ブース							
205 休憩室								
206 実行委員控室	210 口頭発表A・K	211 口頭発表B・L	212 口頭発表C・M	213 口頭発表D・N	214 口頭発表E・O	215 口頭発表F・P 共同企画Ⅰ	☆☆男女トイレ 階段	
受付・弁当	←出入口 階段						出入口→ 講堂・懇親会場	

301 共同企画Ⅱ・Ⅵ・Ⅸ		☆☆男女トイレ					(第一共通棟 3階)	
303 院生フォーラム	307 ポスター発表 W							
	308 共同企画 Ⅳ・Ⅷ・Ⅺ							
304 ポスター発表 U	309 ポスター発表 X							
305 共同企画 Ⅲ・Ⅶ・Ⅹ								
306 ポスター発表V	310 口頭発表G・Q	311 口頭発表H・R	312 口頭発表I・S	313 口頭発表J・T			☆☆男女トイレ 階段	

ポスター発表の会場と院生フォーラムの会場は
設定された時間以外は休憩室として
利用できます。

ポスター発表の会場と院生フォーラムの会場は
設定された時間以外は休憩室として
利用できます。

日程表

10月21日(土)

()の中は会場を示す。

9:00	9:30	12:00	13:00	14:30	14:45	17:15	17:30	18:30	20:00
受付・打合せ	口頭発表		プロジェクト研究Ⅰ (201)		【実行委員会企画】 講演		学会賞 授賞式		懇親会
	A (210) B (211)		共同企画Ⅰ (215)		シンポジウム		総会		
	C (212) D (213)		共同企画Ⅱ (301)						
	E (214) F (215)		共同企画Ⅲ (305)						
	G (310) H (311)		共同企画Ⅳ (308)						
	I (312) J (313)								
	(第一共通棟)		(第一共通棟)		(講堂)		(講堂)		(第一 福利施設)
	院 生 フ ォ ー ラ ム (303)								

10月22日(日)

8:30	9:00	11:30	13:00	13:50	15:20	15:30	17:00
受付・ 打合せ	口 頭 発 表		ポスター発表		共同企画Ⅴ (201)		プロジェクト研究Ⅱ (201)
	K (210)	L (211)	U (304) V (306)		共同企画Ⅵ (301)		共同企画Ⅸ (301)
	M (212)	N (213)	W (307) X (309)		共同企画Ⅶ (305)		共同企画Ⅹ (305)
	O (214)	P (215)			共同企画Ⅷ (308)		共同企画Ⅺ (308)
	Q (310)	R (311)	発表者責任在席時間 U・W: 11:30-12:15 V・X: 12:15-13:00				
	S (312)	T (313)					
	←		(第一共通棟)				→

*口頭発表の開始時間は、21日(土)は9:30、22日(日)は9:00です。

*口頭発表の打ち合わせは、21日(土)は9:00から、22日(日)は8:30から行います。

口頭発表の方と司会者は各会場に集合してください。

*ポスター発表の方と座長は、それぞれの発表開始10分前に各会場に集合してください。

平成29年度総会

日時：10月21日(土) 17:30～18:30

会場：講堂

- 議題：
1. 開会の辞
 2. 会長挨拶
 3. 議長選出
 4. 議事
 - 1) 会務報告
 - 2) 平成28年度会計報告・監査報告
 - 3) 平成29年度補正予算
 - 4) 平成30年度事業計画および予算
 - 5) 第49回大会開催地について
 - 6) 第50回大会開催候補地について
 - 7) その他
 5. 閉会の辞

ご参加の皆様へ

1. 名札をご着用ください。参加証、弁当券、懇親会入場券を兼ねています。
2. 受付は第1 共通棟 2 階になります。クロークは用意いたしませんので、休憩室をご利用ください。
3. 事前にお申込みいただいたお弁当の引換は、11時30分から13時30分まで、**共通棟 2 階の受付付近**で行います。お召し上がり後のお弁当ガラの回収も同じ場所で行います。それ以外のゴミのお持ち帰りにご協力をお願い致します。なお昼食は休憩室および空き会場をご利用ください。
4. **飲料自販機**はバス停や第1 福利施設「ハンズ」（懇親会会場）をはじめとした各所にごあります。
5. 大学内の食堂・売店等は、大会時には営業しておりませんのでご注意ください。
6. 院生フォーラムは、大会当日の飛び入り参加も可能です。（正会員のみ）

口頭発表・共同企画のご案内

発表者の方へ

1. 1 日目（10 月 21 日・土曜日）研究発表の方は当日午前 9 時に、2 日目（10 月 22 日・日曜日）研究発表の方は当日午前 8 時 30 分に、各発表会場においてください。出欠確認および司会者との打合せと使用機器の設定確認を行います。なお、司会者との打合せ前に受付をお済ませください。
2. パソコンは用意していません。コンピュータは発表者の責任でご持参のうえ動作確認を行ってください。プロジェクターは RGB（D-Sub15 端子）、音声はミニプラグ（イヤフォン端子）になります。それ以外の接続が必要な場合は、変換ケーブル・コネクター等を各自でご用意ください。
3. 発表資料は発表者各自が当日会場にご持参ください。会場での増刷はできませんので十分な数（50 部以上）をご用意いただき、会場スタッフにお渡しください。資料は会場スタッフが配付致します。また、打合せの際に司会者用の資料とは別に事務局保存用の資料 1 部を司会者にお渡しください。
4. 口頭発表時間は 20 分（15 分予鈴、20 分終鈴）、質疑応答 5 分です。時間厳守をお願い致します。
5. 共同企画の進行は代表者に一任します。開始・終了時刻を厳守してください。

司会者の方へ

1. 研究発表開始 30 分前に、各会場にて発表者との打合せをしてくださるようお願い致します。なお、打合せ前に受付をお済ませください。
2. 打合せの際に、発表者の出欠確認をお願い致します。なお、発表者全員が打ち合わせ時間内に機器の設定確認を済ませることができるよう、ご配慮をお願い致します。
3. 発表者からお受け取りになった資料 1 部は、記録用として所定の袋にて保管をお願い致します。
4. 時間の厳守をお願い致します（発表 20 分、質疑応答 5 分、移動時間 5 分）。なお、タイムキーパーは司会者をお願い致します。

ポスター発表のご案内

発表者の方へ

1. ポスター発表の開始 10 分前 (304, 306, 307, 309 共に 11 時 20 分) までに掲示の準備を終えてください。前日から掲示することもできますが、ポスター発表終了時間 (13 時) から大会終了時までの間に必ず自分で撤去してください。なお、大会参加受付は事前にすませておいてください。
2. ポスターの基本サイズは A0 (841×1189 mm) です。所定の場所に掲示してください。
3. 座長へ出席をお知らせください。304, 307 の発表者は 11 時 20 分に, 306, 309 の発表者は 12 時 5 分に座長が出席を確認します。
4. 筆頭発表者であることがわかるように、座長から渡されるリボンをつけてください。
5. 定刻になりましたらポスター発表を開始してください。プログラムの定時進行のため時間厳守にご協力ください。
6. 〈掲示時間内の指定場所でのポスター掲示〉と〈掲示場所での責任在席時間内の個別討論〉の全てを行うことをもって、発表の成立とします。
7. 動画や音声の扱いについては、タブレットとノート PC での出力のみ可、外付のスピーカー使用は不可、ヘッドセットなどを使用して参加者が個別に聴けるようにすることは可。ただし、周囲の発表者、参加者の妨げにならないよう、音量には注意してください。
8. 責任在席時間外にもポスターを掲示いたしますので、差支えなければ、連絡先（メールアドレス等）をポスターに記載してください。
9. 英語による発表も可能です。

座長の方へ

1. ポスター発表開始 10 分前 (304, 307 ご担当の方は 11 時 20 分に, 306, 309 ご担当の方は 12 時 05 分)にご担当の会場にお越しください。大会参加受付は事前にすませておいてください。
2. 発表者の出席をご確認ください。304, 307 は 11 時 20 分に, 306, 309 は 12 時 5 分に出席を確認します。
3. 事務局よりあらかじめリボンをお渡しいたしますので、筆頭発表者にお渡しください。
4. ポスターが規定通りに作成されているかどうかをご確認ください。あわせて、上記「発表者の方へ」に記載された、6.7.8. について打ち合わせ時にご確認ください。
5. 定刻になりましたらポスター発表を開始してください。プログラムの定時進行のため時間厳守にご協力ください。
6. 責任在席時間中、発表者が発表の説明や質疑応答を行っていることを確認してください。また座長は、個別討論がスムーズに進むよう、状況に応じて発表についての質疑等を行います。なお、責任在席時間に不在であることが認められた場合には、発表取り消しとし、終了後に事務局への報告をお願いします。

実 行 委 員 会 企 画
「音楽を教える人材とは？ これからの音楽科教員に求められること」

ご挨拶（講堂）21日（土）14：45～14：50

日本音楽教育学会会長 小 川 容 子
 第48回大会実行委員長 新山王 政 和

基調講演（講堂）21日（土）14：50～15：50 1
 教育改革の中で問われる教師の力量とその育成

愛知教育大学学長 後 藤 ひとみ

シンポジウム（講堂）21日（土）16：00～17：15 2
 音楽を教える人材とは？ これからの音楽科教員に求められること

シンポジスト：国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 津 田 正 之
 岡山大学 小 川 容 子
 上野学園大学 山 内 雅 子
 コーディネーター：東京藝術大学 山 下 薫 子
 企画：愛知教育大学 新山王 政 和

常 任 理 事 会 企 画

プロジェクト研究Ⅰ（201）21日（土）13：00～14：30 3
 学校と社会を結ぶ音楽教育（第1年次）

—教育プログラムにおける協働的な学びを模索する—

話題提供：東京音楽大学 加 藤 富美子
 東京藝術大学 熊 倉 純 子
 国立音楽大学 塩 原 麻 里
 企画・司会：開智国際大学 坪 能 由紀子
 企画： 弘前大学 今 田 匡 彦

プロジェクト研究Ⅱ（201）22日（日）15：30～17：00 4
 若手研究者が考える音楽教育学の今後（第2年次）

—研究方法論の追求から学と学会の在り方を見通す—

パネリスト： 上野学園大学 甲 斐 万里子
 兵庫教育大学大学院生 高 橋 潤 子
 青森明の星短期大学 千 葉 修 平
 帝京大学 塚 原 健 太
 企画・司会： 弘前大学 今 田 匡 彦
 企画： 開智国際大学 坪 能 由紀子

研究発表（口頭発表）

研究発表A（210）21日（土）9：30～12：00

司会：奥村正子（神戸松蔭女子学院大学）・桂直美（東洋大学）

A-1	1960年代の学校実践に見る情操教育としての音楽教育	5
	—東京都文京区立柳町小学校の実践を手がかりに—	
	大阪府立八尾支援学校 山 本 耕 平	
2	F. ジルヒャー作品と戦後の音楽教育	6
	—明治期から戦後期に至る唱歌集・教科書掲載曲と指導書の分析を通して—	
	学習院大学 嶋 田 由 美	
3	自己の存在原理における「もの」としての音楽の意義	7
	—ラカンの欲望の弁証法を手掛かりに—	
	東京学芸大学大学院生 清 水 稔	
4	声楽の教授場面における指導者の役割	8
	—G. ベイトソンのコミュニケーション論に基づく構造論的把握を軸に—	
	京都大学大学院生 堀 雄 紀	
5	戦後音楽科成立期における音楽教育思潮についての考察（2）	9
	—仙台市の小学校における音楽教育の状況について—	
	東京学芸大学大学院生 小 関 崇 司	

研究発表B（211）21日（土）9：30～12：00

司会：市川恵（早稲田大学）・長尾智絵（北海道教育大学）

B-1	ウォーミングアップ時における競技者の音楽利用	10
	—大学生長距離走者を対象とした運動実験を中心に—	
	兵庫教育大学大学院生 仙 田 真 帆	
	岡山大学 小 川 容 子	
2	プロオーケストラ奏者を対象とした演奏不安のライフヒストリー研究Ⅱ	11
	—音楽学習と演奏場面の文脈をふまえた検討—	
	岡山大学大学院生 壽 谷 静 香	
3	階名による旋律のピッチ認知と全音階スキーマ形成の現状	12
	—中学生を対象とした認知実験—	
	愛知県長久手市立北中学校 伊 達 忠 徳	
	愛知県立大学 高 橋 範 行	
4	弾きたい音（鍵）を弾くために、視覚と聴覚は重要か	13
	—視聴覚情報を除去したピアノ演奏のエラー分析から—	
	京都市立芸術大学 大 澤 智 恵	
	東京大学大学院 澤 井 賢 一	
5	中学生の歌唱における「音痴」意識	14
	—質問紙調査の分析を通して—	
	宮城教育大学 小 畑 千 尋	

研究発表C (212) 21日 (土) 9:30 ~ 12:00

司会：三橋さゆり (埼玉大学)・森下修次 (新潟大学)

C-1	音楽胎教をした4歳児の発達について —KIDS乳幼児発達スケールの結果から—	15
	東京福祉大学短期大学部 本 野 洋 子 東京福祉大学 岡 村 弘 大阪教育大学附属池田小学校 桐 山 由 香	
2	イギリス (イングランド) の初等教育KS1における歌唱教材の役割 —rhythmic/musical movement songs (動きのある歌) との関係性—	16
	東北福祉大学 鈴 木 敦 子	
3	コーパスを用いた乳幼児の音楽活動支援 —支援課題を可視化するツールの活用—	17
	お茶の水女子大学大学院生 深 町 澄 子	
4	モンテッソーリ・メソッドに基づくJ. K. ミラーの音楽教育観 —A. M. マッケローニの音楽指導法との比較を通して—	18
	エリザベト音楽大学 藤 尾 かの子	
5	佐賀コダーイ芸術教育研究会のコダーイ・システム実践に関する研究 —乳幼児クラスに着目して—	19
	広島大学大学院生 富 永 素 子	

研究発表D (213) 21日 (土) 9:30 ~ 12:00

司会：菅道子 (和歌山大学)・木下和彦 (淑徳大学)

D-1	「囚われた耳」の解放を目指して —図形楽譜による創作活動—	20
	弘前大学大学院生 金 崎 惣 一	
2	フィンランドの基礎学校における音楽科教育カリキュラムに関する研究 —National Core Curriculum2004と2014の変容—	21
	広島大学大学院生 藤 井 恵 子	
3	WILLEMS METHODの内的聴感とその育成 —カタルーニャ州立ベラアントン校の実践における教師の「仕掛け」—	22
	広島大学大学院生 フェラン・ガリシア・ジュゼプ	
4	インクルーシブな音楽・造形活動における「身体」と「ことば」 —聴覚障害者・視覚障害者・幼児児童が参加したワークショップからの考察—	23
	植草学園大学 高 木 夏奈子	
5	中学校音楽授業において育成可能な資質・能力に関する研究 —質問紙調査分析からみる相互作用—	24
	東京学芸大学 田 邊 裕 子 東京学芸大学附属小金井中学校 田 川 聖 旨 東京学芸大学 石 上 則 子	

研究発表E (214) 21日 (土) 9:30 ~ 12:00

司会：岡部芳広 (相模女子大学)・降矢美彌子 (宮城教育大学名誉教授)

E-1	総合的な音楽能力の育成に関する研究 —「〈音楽家の耳〉トレーニング」システムを導入した授業例から—	25
	エリザベト音楽大学 岡田陽子	
2	地域文化の伝承基盤としての社会教育 —鹿児島県奄美大島のしまうた・八月踊りを事例に—	26
	東京大学大学院生 杉浦ちなみ	
3	中高年ピアノ学習者の学習におけるつまずきについて —指導者の視点と教則本から—	27
	京都ノートルダム女子大学 古庵晶子	
4	ブラジルにおける尺八の普及 —H. ズルツバッハーによる楽器製作と教育活動—	28
	東京音楽大学大学院生 瀬上ラファエル広志	
5	保育士・幼稚園教諭採用試験における音楽実技内容に関する分析 —使用テキストとの関連性を視点に置いて—	29
	埼玉東萌短期大学 辻浩美	
	埼玉東萌短期大学 田中麻衣	
	秋草学園短期大学 鹿戸一範	

研究発表F (215) 21日 (土) 9:30 ~ 12:00

司会：藤井康之 (奈良女子大学)・吉澤恭子 (秋田大学)

F-1	保育者養成課程における「音楽表現」の到達目標に関する研究 —短大通信教育課程スクーリングを事例として—	30
	小田原短期大学 小松原祥子	
2	子どもの豊かな感性を養うことを目的とした保育者の伴奏 —言葉と音楽の関係を意識する—	31
	関東短期大学 久保田和子	
3	幼小を見通した共通事項の指導法研究 —音楽と身体表現の共有概念に着目した実践を通して—	32
	大和大学 寺井郁子	
4	ハンス・ライグラフのピアノ指導 —自立した弟子の経験にみるその本質—	33
	東京藝術大学大学院研究生 田舎片麻未	
5	アウトリーチの教育的意義について —ティーチング・アーティストとコミュニティ・ミュージック—	34
	エリザベト音楽大学 壬生千恵子	

研究発表G (310) 21日 (土) 9:30 ~ 12:00

司会：木間英子 (昭和女子大学)・本多佐保美 (千葉大学)

G-1	音楽科教育におけるわらべうたの扱いについて —わらべうた運動後におけるわらべうたに対する認識を事例にして— 山口学芸大学 木 橋 彩 音	35
2	音楽鑑賞授業における音楽活動の検討 —キャラクター・ダンスの指導と教材の適用— 広島女学院大学 森 保 尚 美	36
3	音楽教育における弦楽器の特性をいかした音感の育成 —弦楽器の調弦を通して— 東京音楽大学大学院生 常 慶 旻	37
4	音楽創作とミメシス (模倣) —鳥の声を切り口として— 弘前大学大学院生 大久保 美 里	38
5	音楽的複眼思考の深まりをめざした授業の試み (3) —タブレット型端末と箏を用いた音楽創作実践の比較から— 北海道教育大学附属札幌中学校 渡 辺 景 子	39

研究発表H (311) 21日 (土) 9:30 ~ 12:00

司会：早川倫子 (岡山大学)・長井覚子 (白梅学園短期大学)

H-1	学校教育における民俗芸能への取り組みとその意義 —塩ビ管による篠笛づくりと地域素材の教材化を通して— 福島県二本松市立油井小学校 山 崎 純 子	40
2	宮城道雄の子どもの歌「童曲」の世界 —子どもが音楽活動に主体的に取り組む工夫と配慮— 函館短期大学 山 下 真由美	41
3	教師の表現としての教材解釈 —ガダマーの表現論を手がかりに— 千葉経済大学 小 池 順 子	42
4	子どもがつくった音楽作品の評価に関する研究 —音楽科における評価規準の妥当性・信頼性の検討— 小田原短期大学 中 村 昭 彦	43
5	音楽教育における「音象徴」について —オノマトペの記述と音声の実態の分析による考察— 甲南女子大学 坂 井 康 子 京都女子大学 岡 林 典 子 京都橘大学 佐 野 仁 美	44

研究発表Ⅰ (312) 21日 (土) 9:30～12:00

司会：古山典子 (福山市立大学)・芳賀均 (北海道教育大学)

- | | | |
|-------|------------------------------------|----|
| I - 1 | 小学校音楽科におけるリトミックを活用した授業実践に関する研究 | 45 |
| | —筑波大学附属小学校研究発表会における高倉弘光教諭の実践に着目して— | |
| | 広島大学大学院生 宇城孝規 | |
| 2 | 昭和26年学習指導要領・音楽科編 (試案) の成立過程に関する研究 | 46 |
| | —作成における近森一重の役割に着目して— | |
| | 兵庫教育大学大学院生 島田郁子 | |
| 3 | 身体表現活動を通じたコンピテンシー育成に関する考察 | 47 |
| | 信州大学 桐原礼 | |
| 4 | 中学校音楽科における「創意工夫して表現する能力」の涵養に関する研究 | 48 |
| | —リュシィの「表現の法則」を基礎として— | |
| | 明星大学 板野和彦 | |
| 5 | 幼保小連携を考慮した「音楽づくり」のあり方 | 49 |
| | 帝京大学 田崎教子 | |

研究発表Ⅱ (313) 21日 (土) 9:30～12:00

司会：杉田政夫 (福島大学)・山中和佳子 (福岡教育大学)

- | | | |
|-------|---------------------------------|----|
| J - 1 | 即興的表現活動のための学習材の開発 | 50 |
| | —客席から演奏者へ意思表示できるシステムを活用して— | |
| | 広島大学 寺内大輔 | |
| 2 | 生活の中と音楽科教育の中にある音楽行為の関連に関する一考察 | 51 |
| | —トマス・トゥリノによる音楽行為の分類を切り口として— | |
| | 長崎大学 西田治 | |
| 3 | 戦後の4拍子の子どもの歌について —拍子のカウントの観点から— | 52 |
| | 東京福祉大学短期大学部 二宮紀子 | |
| 4 | 中学校音楽科における合唱指導のあり方 | 53 |
| | —合唱に必要な基礎的能力を育てる指導法— | |
| | 千葉県御宿町立御宿中学校 桑門麻希子 | |
| 5 | 対話的・協働的な活動により深める創作指導 | 54 |
| | —小学校・教員養成課程学生を対象とした実践から— | |
| | 上越教育大学 時得紀子 | |
| | 兵庫教育大学大学院生 今成満 | |
| | 兵庫教育大学大学院生 浅井暁子 | |

研究発表K (210) 22日 (日) 9:00～11:30

司会：熊木眞見子（文教大学）・永岡郁（昭和女子大学）

K-1	ヤマハ音楽教室の創設とテキストの編纂 —1950～60年代前半における音楽教室の実態—	55
	東京藝術大学 小山文加 ヤマハ音楽振興会 森内秀夫	
2	19世紀末～20世紀初頭のドイツ・オーストリアにおける日本詩と声楽曲 —カール・フローレンツ『東方よりの表敬』（1894）による声楽曲—	56
	名古屋大学 釘宮貴子	
3	明治期の唱歌教育における「翻訳唱歌」と国民形成 —中学生徒を対象にした官製唱歌教科書の分析を通じて—	57
	九州大学 佐藤慶治	
4	音楽を聴く行為によって育まれる「自己性」についての試論 —音楽鑑賞概念の再考を目指して—	58
	八戸学院大学短期大学部 安田美央	
5	戦前の大型民間ホールとこどもの音楽活動 —社団法人朝日新聞社会事業団のこども対象企画（1926年-1935年）の検討より—	59
	奈良学園大学 山本美紀	

研究発表L (211) 22日 (日) 9:00～11:30

司会：大竹紀子（相模女子大学）・樫下達也（京都教育大学）

L-1	長唄三味線の伝統的指導における唱歌の役割についての考察 —小学生の稽古記録から—	60
	犬山こども長唄クラブ主宰 山田佳穂 埼玉学園大学 寺田己保子	
2	児童の音高はずれの要因と効果的指導法に関する研究 —（第1報）小学校3年生を対象とした実態調査と試行的実践の報告—	61
	元 鈴峯女子短期大学 大西潤一 比治山大学 緒方満 広島大学大学院生 能見義史	
3	小学校音楽科における視唱力の育成に関する実証的研究（2） —広島県内B小学校第3学年へのエクササイズ実践をととして—	62
	比治山大学 緒方満 元 鈴峯女子短期大学 大西潤一 広島大学大学院生 能見義史	
4	能動的な姿勢をうながす鑑賞教材に関する一考察 —ジュネーヴ州公立小学校の授業を事例として—	63
	鹿児島大学 今由佳里	
5	小学校における“音楽すること”からひろがる・深まる姿を追う —学習環境からのアプローチ①—	64
	お茶の水女子大学附属小学校 町田直樹	

研究発表M (212) 22日 (日) 9:00～11:00

司会：阿部いと子（つくば国際短期大学）・寺内大輔（広島大学）

M-1	保育園で過ごす2歳児A児の歌唱に関わる動き —歌う直前の動き—	65
	池坊短期大学 測 田 陽 子	
2	幼児のサウンドの記譜に関する思考の考察 —木琴や鉄琴導入時の幼児の反応を分析して—	66
	北海道教育大学 尾 藤 弥 生	
3	幼児の主体的な音楽活動を創発させる環境設定の試み —歌唱表現による鑑賞活動に着目して—	67
	埼玉大学 三 橋 さゆり	
4	就学前のバランスの良い音楽経験における〈感受〉に関する一考察 —歌唱表現による鑑賞活動に着目して—	68
	実践女子大学 長谷川 恭 子	

研究発表N (213) 22日 (日) 9:00～11:30

司会：時得紀子（上越教育大学）・牧野淳子（京都文教大学）

N-1	フィガーノートを間口に考える，義務教育における楽譜の扱い —音楽授業のユニバーサルデザインを念頭に—	69
	明星大学 阪 井 恵	
2	音楽科における学習指導案についての考察 —演奏家による箏の指導に着目して—	70
	東京学芸大学大学院生 一 條 昌 子	
3	我が国の伝統音楽に関する授業実践の分析 —演奏家による箏の指導に着目して—	71
	広島大学大学院生 大 井 絃	
4	小学校音楽科における「対話的な学び」の有効性と課題 —これからの小学校音楽科に求められる「対話的な学び」とは何なのか—	72
	長崎大学教育学部附属小学校 山 口 亮 介	
5	中学校における楽曲分析モデルの構築 —実践の分析・考察を通して—	73
	東京学芸大学大学院生 及 川 慶 太	

研究発表O (214) 22日 (日) 9:00 ~ 11:30

司会：坂井康子 (甲南女子大学)・村上康子 (共立女子大学)

O-1	ピアノ演奏におけるカデンツの指導法について 74 —保育者・教員養成におけるピアノ実技の実践を通して— 東京家政大学 齋 木 麻 美
2	日本の伝統音楽のよさを子どもに伝える資質を身に付けた学生の育成 75 —『雅楽』越天楽』の教材化を通して— 中村学園大学 西 村 敬 子
3	音楽の技術指導場面における指導言の研究 76 —比喩表現に着目して— 北海道教育大学大学院生 菅 原 早希子
4	教則本を創るという研究 77 —『ピアノも歌う』の教材創作と作成意図およびシステム化をめぐって— 帝塚山大学 村 尾 忠 廣
5	小学校教員養成・音楽科目におけるダンス・コディフィエ実践 78 —導入の背景および実践報告から— 秋田大学 吉 澤 恭 子

研究発表P (215) 22日 (日) 9:00 ~ 11:30

司会：小林田鶴子 (神戸女子大学)・壬生千恵子 (エリザベト音楽大学)

P-1	幼児教育における合奏指導法の研究 79 —幼小連携の視点に立った保育者養成校の取り組み— 鶴川女子短期大学 高 畠 扶 貴
2	初心者を対象としたヴァイオリン「全弓奏法」の取り組み 80 —3つのFormationづくりをベースにして— 埼玉大学 伊 藤 誠
3	グループウェアを取り入れた相互作用的な講義の展開について 81 熊本大学 瀧 川 淳
4	川田順造の「文化の三角測量」の視点による授業実践の提案 —日本・インドネシア・オーストリア・ハンガリーの民俗舞踊を扱って— 82 宮城教育大学名誉教授 降 矢 美彌子
5	ESD教育を視点とした音楽科と理科の連携 83 —小中学校や大学教員養成課程での実践に向けて— 岐阜聖徳学園大学 加 藤 晴 子 岡山大学 加 藤 内蔵進

研究発表Q (310) 22日 (日) 9:00 ~ 11:30

司会：小畑千尋 (宮城教育大学)・駒久美子 (和洋女子大学)

Q-1	ICTを用いた創作活動における課題分析 84	
	—アプリケーションを用いた実践実験を通して—	
		広島大学大学院生 松原保子
2	フレデリック・フスラーの思想における「模倣」 85	
	—児童の音楽指導への示唆を考慮しながら—	
		東京経営短期大学 長友洋喜
3	音楽づくりの様々な発想を得るための指導上の留意点 86	
	—小学校低学年における声による音遊びの実践を通して—	
		神戸市立神戸祇園小学校 西沢久実
4	音楽と理系領域の合科的学習の試み 87	
	—振動数比を基にした和音の響きを題材として—	
		北海道教育大学 芳賀均
5	音楽科における「統合的学習」としての即興の意義 88	
	—米国のNational Core Arts Standardsにおける即興の取扱いの検討を通して—	
		東京純心大学 田中路

研究発表R (311) 22日 (日) 9:00 ~ 11:00

司会：鈴木慎一郎 (鳥取大学)・永岡和香子 (浜松学院大学短期大学部)

R-1	自分の音楽史を語る	
	—生涯教育への接続を意識した高等学校の実践— 89	
		東京学芸大学附属高等学校 居城勝彦
2	変声期男子が快適に歌える合唱指導法と教材開発に関する研究 (3) 90	
	—カンビアータ・コンセプトの方法論の検証と教材開発—	
		山口大学 高橋雅子
3	保育者養成課程における音楽制作の取り組み 91	
	—聴音に焦点をあてて—	
		金城学院大学 磯部澄葉
4	「ふしづくりの教育」の実践 (1) 92	
	—広島市立戸坂小学校の中峯悠太教諭による第3学年の実践—	
		広島大学名誉教授 吉富功修 広島大学 三村真弓

研究発表S (312) 22日(日) 9:00～11:00

司会：味府美香（東京成徳大学）・長谷川諒（神戸大学）

S-1	ノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法の動向	93
	福島大学 杉田政夫 名古屋芸術大学 伊藤孝子 大垣女子短期大学 菅田文子	
2	昭和戦前期松沢病院における「病者慰安」としての音楽療法 —「教育治療」との関連を中心に—	94
	国際日本文化研究センター 光平有希	
3	聾学校における〈聴くこと〉を中心とした音楽教育 —サウンド・エデュケーションの実践を通して—	95
	弘前大学大学院生 外崎純恵	
4	同一曲で視点を変えた音楽聴取が脳皮質の脳血流に与える影響	96
	信州大学 齊藤忠彦	

研究発表T (313) 22日(日) 9:00～11:30

司会：高須裕美（名古屋短期大学）・山本幸正（国立音楽大学）

T-1	ことばと声に着目した日本伝統音楽の指導法と教材開発研究（4） —「唄う」と「語る」の特徴を意識した長唄《勧進帳》の授業プランの提案—	97
	長唄三味線演奏家・千葉大学 山田美由紀 静岡大学 志民一成 千葉大学 本多佐保美	
2	嗄声の女兒の声の変容の根拠 —音声生理学×音楽教育—	98
	上野学園大学 山内雅子 桐朋学園大学・洗足学園大学 竹田数章	
3	地域芸能伝承の意義 —佐渡市豊岡地区において学生が伝承する鬼太鼓の事例から—	99
	新潟大学 森下修次	
4	童謡レコードと童謡歌手の教育的意義 —国民学校芸能科音楽実施前の授業案に焦点をあてて—	100
	国立音楽大学 鯨井正子	
5	ピアノ教育における自己調整学習力の育成 —「逆向き設計」論にみられる「永続的な理解」を視点として—	101
	兵庫教育大学大学院生 城村奈都子	

研 究 発 表 (ポスター発表)

研究発表U (304) 22日 (日) 11:30 ~ 13:00

座長 武内裕明 (弘前大学)

※発表者の責任在席時間 11:30 ~ 12:15

- U-1 「絶対音感教育」とリトミック教育との相互関連 102
 —山田耕笹と園田清秀をめぐる人間関係の考察による—
 北海道教育大学 長 尾 智 絵
- 2 ドイツの絵本・音楽教材にみる絵と音楽の融合 103
 —絵譜の萌芽と発展—
 湊川短期大学 白 井 奈 緒
- 3 音楽と「イメージ」の関係について 104
 —バシュラル詩学からの考察—
 弘前大学大学院生 竹 尾 宗 馬
- 4 日本占領下のジャワにおける歌の記憶 105
 —ジャカルタ近郊での調査を通して—
 立命館大学 丸 山 彩
- 5 芸術統合カリキュラム構造における音楽領域の位置付けに関する研究 106
 —古典的芸術観および諸認識論に注目して—
 広島大学大学院生 齋 藤 紘 希
- 6 音声の可視化の試み③ 107
 —音質評価を用いた分析の報告—
 東京藝術大学 鹿 倉 由 衣
 早稲田大学 市 川 恵
 立教女学院短期大学 小佐川 心 子
 聖心女子大学 今 川 恭 子
- 7 音楽と身体表現の関わり 108
 —コンテンポラリーダンサーが音楽的感覚を知覚・認識する程度に着目して—
 広島大学大学院生 藤 井 菜 摘
- 8 子どもと自然の音 109
 常磐会短期大学 小 谷 朋 子
- 9 新しい幼稚園教育要領・保育所保育指針が音楽表現教育に求めるもの 110
 —コアカリキュラムを踏まえた保育内容「表現 (音楽)」を考える—
 岡山県立大学 吉 永 早 苗

研究発表V (306) 22日 (日) 11:30 ~ 13:00

座長 西島千尋 (日本福祉大学)

※発表者の責任在席時間 12:15 ~ 13:00

- V-1 保育における子どもの音楽的表現に関する研究 111
 —「音楽する」子どもをどのように捉えるか—
 函館短期大学 五十嵐 陸 美
 名古屋学院大学 横 井 志 保
- 2 幼稚園における音遊びで育まれる汎用的資質・能力に関する研究 112
 —広島大学附属三原学校園の取組に着目して—
 広島大学 三 村 真 弓
 広島大学附属三原小学校 長 澤 希
 広島大学名誉教授 吉 富 功 修

3	幼児における和声の嗜好と認知 ―発達の側面から―	113
	九州女子大学 中 村 紗和子 九州女子大学 村 上 太 郎	
4	3・4・5歳児のわらべうたを通した音楽教育	114
	―『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた教育課程の編成』に向けて― 川村学園女子大学 尾 見 敦 子	
5	アウトリーチ・コンサートを幼児の遊びにつなげる試み	115
	―幼稚園の三歳児クラスにおける事例の検討― 帝京平成大学 乙 部 はるひ	
6	家庭における音楽行動についての調査	116
	―5～6歳児の子どもの歌唱に着目する― 名古屋短期大学 高 須 裕 美	
7	絵本から生まれる音楽	117
	―子どもの表現活動における呼吸や声の多様なコミュニケーションを求めて― 東京成徳大学 長 野 麻 子	
8	探究心を育む幼児期の音楽表現	118
	―青竹筒を使ったあそびの中に「音と歌」を取り入れる指導方法― 日本福祉大学 笹 谷 朋 世	
9	中国における社会ピアノグレードが幼児ピアノ教育に与える影響	119
	広島大学大学院生 王 盛	

研究発表W (307) 22日 (日) 11:30～13:00

座長 塚原健太 (帝京大学)

※発表者の責任在席時間 11:30～12:15

W-1	カンボジアの音楽教育の実態に関する一考察	120
	広島大学大学院生 山 本 千 恵	
2	国際バカロレア (IB) と学習指導要領における音楽教育の比較	121
	―初等教育課程 (PYP) におけるコンピテンシーおよびコンテンツに焦点をあてて― 愛知学泉大学 安 江 真由美	
3	国際バカロレア芸術分野における経験主義	122
	―中等教育課程 (MYP) における「探究」学習を中心に― 岐阜大学 松 永 洋 介	
4	初心者に対応したリコーダー	123
	―音孔の形状に着目して〔Ⅱ〕― 明星大学 高 嶋 道 夫	
5	小学校音楽科において「プログラミング的思考力」を育むための活動とは	124
	広島大学大学院生 長 山 弘	
6	中国内モンゴル自治区における音楽教育の現状とこれからの展望	125
	広島大学大学院生 アルサラン	

7	和音感教育をめぐる音楽科教育 —学習指導要領と教科書の分析から—	126
	広島大学大学院生 辻 勇 介	
8	発声法指導時における視覚化の効用	127
	昭和音楽大学 萩 原 かおり	
	昭和音楽大学 羽 石 英 里	
	和歌山大学 河 原 英 紀	
9	ICTを利用した音楽科授業に関する一考察 —現実的かつ有効的な使用方法を探る—	128
	愛知教育大学大学院生 高 田 みずほ	

研究発表X (309) 22日 (日) 11:30 ~ 13:00

座長 安久津太一 (就実大学)

※発表者の責任在席時間 12:15 ~ 13:00

X-1	保育における「こどものためのうた」の弾き歌いに関する研究 —初心者ピアノ練習曲として活用するための試み—	129
	帝京科学大学 飯 泉 祐美子	
	武蔵野音楽大学 森 永 美穂子	
2	「小学校歌唱共通教材」を用いたコード付け伴奏学習の授業実践 —授業テキスト改訂の背景と現状—	130
	常葉大学 明 和 史 佳	
	小田原短期大学 望 月 たけ美	
3	「グラフィック・スコア (図形総譜)」による音楽イメージの共有 (2) —学生の記譜と演奏 (発表) の関係に着目して—	131
	愛知教育大学 麓 洋 介	
4	サクソフォンの通常音域の替え指の学習に関する一考察 —教則本の比較・検討を中心に—	132
	宮崎大学 酒 井 勇 也	
5	学習最初期のフルート学習者に向けた教本の一考察 —アンリー・アルテスとトレヴァー・ワイの教本比較から—	133
	広島大学大学院生 明 本 遥	
6	自己効力感を高めるピアノ指導の検討 —目標シート活用の試み—	134
	新見公立短期大学 吉 村 淳 子	
7	邦人ピアノ作品についての研究 —資料による調査と海外から見た邦人ピアノ作品—	135
	エリザベト音楽大学大学院生 長谷川 智 子	
8	未就学児を対象とする音楽アウトリーチ活動に関する一考察 —観客参加型音楽劇を用いて—	136
	エリザベト音楽大学大学院生 三 谷 晴 佳	
9	音楽科教育における『創造性』に関する一考察 —小学校音楽科における在り方を問い直す—	137
	愛知教育大学大学院生 大 西 華 恵	

共 同 企 画

- 共同企画Ⅰ** ラウンドテーブル (215) 21日 (土) 13:00 ~ 14:30
 地域と連携した音楽教育の可能性 138
 —のぞみこども園におけるオペラ《あまんじゃくとうりこひめ》上演の取り組みから—
 話題提供: 静岡大学 石川 眞佐江
 早稲田大学 市川 恵
 立教女学院短期大学 小佐川 心子
 指定討論: 東京大学 新藤 浩伸
 企画・司会: 聖心女子大学 今川 恭子
- 共同企画Ⅱ** ラウンドテーブル (301) 21日 (土) 13:00 ~ 14:30
 音・モノ・身体 —それって創造性? (2) — 139
 話題提供: 白梅学園短期大学 長井 覚子
 福山市立大学 古山 典子
 倉敷市立柏島小学校 逸見 学伸
 指定討論: 駒沢女子大学 丸山 慎子
 企画・進行・話題提供: 桜美林大学 木村 充子
- 共同企画Ⅲ** パネルディスカッション (305) 21日 (土) 13:00 ~ 14:30
 音色と向き合い、音色と関わる器楽活動の探求 140
 —3つの小学校の授業実践を組上にあげる—
 司会進行: 岡山大学 小川 容子
 話題提供: 岡山大学 早川 倫子
 共立女子大学 村上 康子
 福岡教育大学 山中 和佳子
 指定討論: 高知県教育委員会 川田 弘人
- 共同企画Ⅳ** ワークショップ・デモンストレーション (308) 21日 (土) 13:00 ~ 14:30
 「つなぐ・かさねる」変奏曲を題材にした器楽合奏ワークショップ 141
 —伝統楽器とテクノロジーを融合させた合奏の試み—
 研究代表・ヴァイオリン: 就実大学 安久津 太一
 音楽教育 (初等)・声楽: 岡山大学大学院生 壽谷 静香
 伝統音楽・尺八: 國學院大学 筒石 賢昭
 テクノロジーと音楽教育: 就実大学 中西 裕
 音楽教育 (中等): お茶の水女子大附属中学校 中山 由美
- 共同企画Ⅴ** パネルディスカッション (201) 22日 (日) 13:50 ~ 15:20
 Indirect Approaches
 —アート・プロジェクトとしての小さな芸術— 142
 弘前大学 今田 匡彦
 弘前大学大学院院生 高橋 憲人
 弘前大学大学院院生 前田 明一
 弘前大学大学院院生 金崎 惣一
- 共同企画Ⅵ** パネルディスカッション (301) 22日 (日) 13:50 ~ 15:20
 教育現場における「イメージ奏法」 143
 —ピアノ演奏法から教育法への展開—
 企画・提唱者: 愛知教育大学 武本 京子
 発表者: 愛知教育大学大学院生 市橋 奈々
 愛知教育大学大学院生 佐野 美咲
 愛知教育大学大学院生 安田 実央
 愛知教育大学大学院生 山本 紗友理
 愛知教育大学大学院生 松川 侑里香
 指定討論者: 帝塚山大学 村尾 忠廣
 司会: 愛知教育大学 國府 華子

共同企画Ⅶ	パネルディスカッション (305) 22日 (日) 13:50～15:20	
音楽に関する実践知研究 (2)		144
—「即時の知」と「信念・価値観としての知」に着目して—		
話題提供者:	京都市立芸術大学 大澤 智恵 宮崎大学 菅 裕 広島大学大学院生 仙北 瑞帆 企画者・司会者・話題提供者: 佛教大学 高見 仁志 話題提供者: 東京未来大学 森 薫	
共同企画Ⅷ	ラウンドテーブル (308) 22日 (日) 13:50～15:20	
伝統芸能「能」のアクティブ・ラーニング		145
—「能」の実体験と教員養成・教員研修の双方向型システムづくりの試み—		
企画・進行・話題提供:	和歌山大学 菅 道子 話題提供: 関西外国語大学 奥 忍 和歌山大学 上野 智子 高安流ワキ方 有松 遼一	
共同企画Ⅸ	パネルディスカッション (301) 22日 (日) 15:30～17:00	
小学校教育におけるICT, プログラミング学習, アクティブ・ラーニングを問う		146
—教員養成段階における真の学習者を育てるための議論の整理—		
企画者・司会:	愛知教育大学 新山王 政和 報告者: 愛知教育大学 麓 洋介 名古屋学院大学 江田 司 鳥取大学 鈴木 慎一郎 情報提供: 愛知教育大学 野田 敦敬 愛知教育大学 江島 徹郎	
共同企画Ⅹ	ラウンドテーブル (305) 22日 (日) 15:30～17:00	
小泉文夫の音楽教育論から学ぶもの (2)		
—音楽教育の理念と実際の再検討—		147
報告:	田園調布学園大学 大田 美郁 千葉大学 本多 佐保美 東京音楽大学 加藤 富美子 京都教育大学 田中 多佳子 企画・進行: 広島大学 権 藤 敦子	
共同企画Ⅺ	ラウンドテーブル (308) 22日 (日) 15:30～17:00	
なぜ日本では「移動ト唱法・階名唱」が定着しないのか		148
—教育現場における音感教育の問題を考える—		
企画・発表・討論:	横浜国立大学 小川 昌文 発表・討論: 川村学園女子大学 尾見 敦子 東京学芸大学大学院生 一條 昌子	